

# 第3学年 外国語活動学習指導案

指導者 京都市立明徳小学校 学級担任 山下 力也

1 日 時 令和7年9月19日（金） 第5校時（13:45～14:30） [教室]

2 学年・組 第3学年2組（30名）

3 単 元 名 What do you like? (“Let’s Try! I” Unit 5 参照）

## 4 目標

### ① 単元の目標

学級の友だちともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。

### ② 関係する領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようとする。

### ③ 関係する言語材料（下線は新出表現）

表現 What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).

語彙 スポーツ (sport, volleyball, table tennis)

飲食物 (food, hamburger, pizza, spaghetti, steak, salad, cake, noodles, egg, rice ball, jam)

果物・野菜 (fruit, grapes, pineapple, peach, melon, banana, kiwi fruit, lemon, onion, green pepper, cucumber, carrot)

既出 挨拶、Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don’t. 数(1…20), 色、形、果物・野菜、飲食物、スポーツ

## 5 単元の評価規準

聞くこと	知能 ・身の回りの物の言い方や、What do you like? I like….などの表現を聞くことに慣れ親しんでいる。 思考 ・学級の友だちともっと仲良くなるために、何が好きかの答えを聞いて意味が分かっている。 態度 ・学級の友だちともっと仲良くなるために、何が好きかの答えを聞こうとしている。
話すこと [やり取り]	知能 ・身の回りの物の言い方や、What do you like? I like….などの表現を用いて、何が好きかを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。 思考 ・学級の友だちともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしている。 態度 ・学級の友だちともっと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとしている。

## 6 単元について

### 【教材観】

・3年生になり、友だちとのつながりが深くなったことに比例して、男女ともに人間関係が固定化してきたようにも感じる。仲の良い友だちとはうまくコミュニケーションをとれても、そうでない友だちとはあまり関わりがないという児童もいる。2学期はスポーツフェスタや学習発表会など、友だちと協力し合って取り組む行事が多くあるので、外国語活動でも、普段関わりの少ない児童同士がコミュニケーションを図れる機会をつくりたいと考えた。そこで本単元では、学級の友だちともっと仲良くなるために、お互いの好みを尋ねたり答えたりするやり取りをして、友だちの好みに合ったプレゼントカードを作って渡すという単元終末の活動を設定する。もっと仲良くなるためにはどのように聞いたり、話したりするとよいか考えたり、好きなものについて積極的に尋ね合ったりすることができるようにしていきたい。

・第1時の初めに、単元終末の活動を示す。児童が見通しをもちやすいように、指導者が他クラスの先生に作成したプレゼントカードを提示する。その際、前単元で学習したDo you like …?の表現を使って児童とやり取りをするようにする。この中で、Do you like …?の表現は、相手の一番好きなものを聞くまでに時間がかかってしまうことを実感できるようにし、その後 Let’s Watch and

Think の活動で、新出表現である **What ○○ do you like?**を使う良さに気付けるようにしたい。

- **What ○○ do you like? / I like ….**のやり取りは、先の学年でも多用する重要な表現であるため、単元を通して慣れ親しんでいけるようにしたい。そのため、第1時からビンゴゲーム等の言語活動を取り入れて、指導者と児童、または児童同士でやり取りを繰り返すようにする。多くの児童が文頭の **What** を **What's** にしてしまったり、答えるときに **I like apple.** というように名詞を単数形にしてしまったりすることが予想されるが、そういう時には直接的に訂正するのではなく、指導者が **Oh, you like apples.** というように正しい表現を示すことで、児童の気付きを促していくたい。
- 本時である第3時では、「友だちともっと仲良くなるために」というめあてに立ち返り、目的意識や相手意識をもってやり取りを工夫できるようにしたい。そのために、中間交流では、前半の活動で相手の好きなものに **Me, too! Good!** などと反応を示していたり、**Do you like …?** と聞き返したりしていた児童を紹介できるようにする。また紹介するだけでなく、そのような反応をすると、された方はどんな気持ちになるのか、実際に児童とやり取りをすることで実感できるように。そして、中間交流で話し合ったことから後半に向けてのめあてをもつことで、後の活動をより充実できるようにしたい。

### 【児童観・指導観】

教科に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことについては、聞きなれない表現や語彙に出会うと、考える前に指導者や友だちに意味を尋ねる児童がいる。</li> <li>・話すことについては、なかなか自信がもてず、相手の目を見て話したり、相手に伝わる声で話したりすることができなくなってしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を聞くときには、相手や登場人物のジェスチャーや表情から意味を推測することが大切であると繰り返し伝えている。</li> <li>・指導者が話す際には、ジェスチャーを使ったり、表情を大げさに示したりすることで、児童が意味を考えながら聞けるようにする。</li> <li>・既習表現や語彙のイラストを教室の側面に掲示しておき、授業外でも慣れ親しめるようにしている。そうすることで、実際に話すときに自信をもてるようになる。</li> <li>・目を見て話していたり、笑顔で話していたりする姿が見られたときは、取り上げて価値づけるようにする。</li> </ul>
目指す資質能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことに意欲的で、自分の意見をもって話すことができる児童が多いが、自分の話が終わると満足してしまい、相手意識をもって聞くことには、課題が見られる児童がいる。</li> <li>・話す時に自分の思いだけを一方的に伝えてしまい、相手の思いや考えをふまえた上で、自分の考えを話すことが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手が相手意識をもって聞けるように、話し手は「話してもいいですか。」と言って注目を集めてから話すようにしている。それに対して、聞き手は返事をして姿勢を整えてから聞くようにしている。</li> <li>・帯時間に行っている対話タイムでは、話の中心を落とさずに聞いて質問したり、聞いたことをもとに自分の考えを話したりする活動に繰り返し取り組んでいる。</li> </ul>

### 7 指導計画（4時間）【指導のポイント ②手立て ④配慮事項 ⑩他教科との関連 ⑪個別支援】

時	指導のポイント	評価	
1	<p>☆身の回りの物の言い方を知り、何が好きかを尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○ミッキングゲーム</p> <p>○【Let's Watch and Think】</p> <p>○【Let's Chant】What do you like?</p> <p>○単元終末の言語活動について知る。</p> <p>○【Let's Play】ポインティングゲーム</p> <p>○何が好きゲーム</p> <p>言語活動→中間交流→言語活動</p>	<p>【Let's Watch and Think】では、児童から指導者に <b>Do you like …?</b> と質問され、指導者は <b>No, I don't.</b> と答え続ける。そうすることで、「何が1番好きかを尋ねるにはどうしたらいいのだろう」という疑問を引き出し、<b>What ○○ do you like?</b> という表現の有用性に気付けるようになる。</p> <p>単元終末に友だちにプレゼントカードを渡すことを伝え、それを作るためには相</p>	<p>聞：知能 身の回りの物の言い方を聞いて理解しているか観察する。</p>

		手にインタビューをして、好みを尋ねる必要があることに気付けるようになる。 △中間交流では、言いたくても言えなかつたことを確認し、新出表現の言い方に慣れ親しむことで、後半の活動に生かせるようにする。	
2	☆身の回りの物の言い方を知り、何が好きかを尋ねたり答えたりしよう。 ○ミッシングゲーム ○【Let's Play】ポインティングゲーム ○仲間探しゲーム（ジャンル別） 言語活動→中間交流→言語活動	△ポインティングゲームは、前時では取り上げなかつた新出語彙を含めた台紙を用いて、新たな語彙に慣れ親しめるようにする。	聞：知技 何が好きかを聞いたり、指をさしたりする姿を観察する。 話【や】：知技 何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿を観察する。
3 (本時)	☆友だちに、何が好きかを尋ねたり答えたりしよう。 ○ミッシングゲーム ○【Let's Play】ポインティングゲーム ○ペアでインタビュー ○中間交流 ○プレゼントを渡す友だちにインタビュー ○プレゼントを作成する。	△ポインティングゲームは、ジャンルで分けた台紙を使って What ○○ do you like?を用いて行えるようになる。 △中間交流では、言いたくても言えなかつた表現を確認したり、学級の友達ともつと仲良くなるための工夫について考えたりする。そのために、手本となる児童を紹介したり、必要に応じて指導者がその児童と一緒にデモンストレーションを行ったりする。	話【や】：知技 何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿を観察する。 話【や】：思・態 学級の友だちともつと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿を観察する。
4	☆友だちともつと仲良くなるために、何が好きかを尋ねたり答えたりしよう。 ○プレゼントを渡す友だちにインタビュー 言語活動→中間交流→言語活動 ○プレゼントを作成する。 ○プレゼントを渡す。	△前時に聞けなかつたことやもっと聞きたいことを尋ね合い、プレゼント作成に生かせるようになる。 △学級の友達ともつと仲良くなるために、本単元を通して工夫したことやそれによる自分や友達の変化について振り返るよう伝えれる。	聞：思・態 話【や】：思・態 学級の友だちともつと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿を観察する。

◎記録に残す評価を行う領域とその場面

- ・聞：知・技  
「何が好きかを聞いたり、指をさしたりする姿」【2時間目】
- ・話【や】：知・技  
「何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿」【3時間目】
- ・話【や】：思・態  
「学級の友だちともつと仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿」【4時間目】

## 8 本時について（3/4）

### （1）目標

友だちに、何が好きかを尋ねたり答えたりする。

### （2）展開

過程	児童の活動	指導者の活動	◇支援 *留意点②個別支援
3分	<p>○挨拶をする。 Hello, Yamashita sensei. I'm ... How are you? ○めあてを確認する。</p>	<p>○全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。 Let's start English class. How are you today? Today's goal, 1, 2</p>	<p>◇本時のめあてや活動の流れを確認することで、見通しをもって活動できるようにする。</p>
5分	<p>○【Let's Play】ミッシングゲームを行う。 Yes, I do. I like ...</p>	<p>○ミッシングゲームを通して、インタビューの活動につながるよう Yes, I do. I like ... と答えらえるように質問する。</p>	<p>*答えた児童と Do you like...? を使ってやり取りをする。 *No, I don't. と答えた児童に対して、全員で What ○○ do you like? と尋ねることで、表現に慣れ親しむことができるようする。</p>
6分	<p>○【Let's Play】ポインティングゲームを行う。</p>	<p>○2人組でポインティングゲームのルールを確かめる。英語の言い方が分からぬ時には教えてあげたり、正解の時には反応したりして伝えるように促す。</p>	<p>◇児童がインタビュー活動で野菜・果物・スポーツ・食べ物に加えて、色や数字なども尋ねられるように、これらをジャンル別に分けた台紙を準備しておき、What ○○ do you like? の表現に慣れ親しめるようする。 *What ○○ do you like? の時は語尾が下がることを必要に応じて示すようにする。</p>

6分	<p>○ペアでインタビュー</p> <p>S1: Hello, ○○san. S2: Hello, ○○san. S1: What food do you like? S2: I like steak. S1: What color do you like? S2: I like black. ※役割を変えて繰り返す。 S1: Thank you. See you. S2: See you.</p>	<p>○隣の友だちと一度インタビューを行い、好みを尋ねたり答えたりする。 ○活動のやり方やインタビューで大切なことを確認する。</p>	<p>*対話のやり取りがしっかりとできるように聞き手と話し手に分けて1分半程度で交代することを伝えるようにする。</p> <p>◇対話タイムで大切にしていることを意識できるようにする。</p> <p>*やり取りを大切にするために、メモを取るなどはあえて薦めないようにする。</p> <p>△ペアを構成する際には、話すことに不安を感じる児童がいることを想定し、サポートができそうな児童と組めるようにする。</p> <p>*机間指導の中で、仲良くなるための工夫をしている児童を見つけておき、中間交流で紹介できるようにする。</p>
8分	<p>○中間交流で前半の活動を振り返り、友だちともっと仲良くなるためにはどんな工夫ができるのかについて考える。 <b>対話</b></p>	<p>○やり取りの中で、できたことやがんばったこと、難しかったことなどを尋ねるようにする。</p> <p>○後半の活動でがんばりたい目標を一人ひとりが決めて後半の活動に臨めるようにする。</p>	<p>*単元のめあてに立ち返って考えられるようにする。</p> <p>*尋ねたり答えたりする中で困っていることも拾いあげて後半の活動で意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>◇児童が見つけた工夫を、実際に数名の児童とやってみるとこと、良さを実感するようにする。</p>
8分	<p>○ペアの友だちにインタビュー <b>対話</b></p> <p>S1: Hello, ○○san. S2: Hello, ○○san. S1: What food do you like? (相手の目を見ながら) S2: I like steak. (ジェスチャーをしながら) S1: Wow! Me too! (相手の好みに共感している) S1: What color do you like? S2: I like black. Do you like black? (自分について答えた後、相手に聞き返しの質問をしている) S1: Yes, I do. (ジェスチャーをしながら) ※役割を変えて繰り返す。 S1: Thank you. See you. S2: See you.</p>	<p>○中間交流で出てきたことを意識して活動している姿を価値化しながら机間指導を行う。</p>	<p>△席の移動や2人組を予め伝えておくことで安心して活動できるようにする。</p> <p>*振り返りで共有するために中間交流で出た工夫を意識して、ペアの友だちにインタビューをしようとしている児童を見取る。</p> <p>△自分で好みを尋ねることが難しい児童には、そばについて一緒に発話したり、ヒントを与えたりする。</p>

5分	○振り返りをする。	○もっと友だちと仲良くなるためにインタビューでできたことを尋ねるようにし次時につながるようにする。	*がんばったことやできたこと以外にも、友だちとやり取りをして嬉しかったこと、楽しかったことなども認めていくようする。
4分	○プレゼントのTシャツを作る。 ○挨拶をする。	○次時にも作ったり、インタビューをする時間が取れることを伝えてできるところまで作成できればよいことを伝えるようする。	*単元が終ってから掲示をしてクラスのみんなの好きなものが視覚的に紹介できるように同じTシャツのプリントを用意しておくようする。

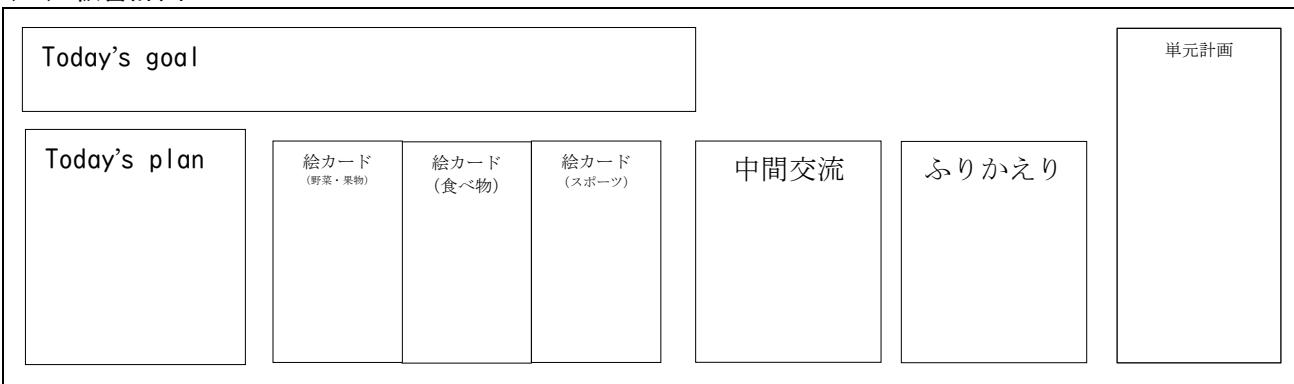
### (3) 評価 (記録に残す評価)

話〔や〕: 知能 何が好きかを尋ねたり答えたりしている姿を確認する。

「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言」

- What ○○ do you like? I like ....の表現を用いて、好きなものについて尋ねたり答えたりしている。

### (4) 板書計画



### (5) 対話のモデル

#### 対話のねらい

- ・言いたくても言えなかつた表現について確かめる。
- ・友だちともっと仲良くなるための工夫（コミュニケーションポイントや聞き返しの質問など）について意見を出し合ひ、後半の活動に向けてめあてをもつ。

#### 言語活動（前半）

S1: Hello, ○○san.

S2: Hello, ○○san.

S1: What food do you like?

S2: I like steak.

S1: What color do you like?

S2: I like black.

※役割を変えて繰り返す。

S1: Thank you. See you.

S2: See you.

## 中間交流

T: インタビューをやってみて言いたくても言えなかつたことはありましたか？

S1: 何のスポーツが好きか質問するときになんて言えばいいのか分かりませんでした。

T: そういう時なんて言えばよかつたっけ？（指導者が答えるのではなく、全体で考える。）

S2: What's sports do you like?

T: そうだね！What sport do you like? でしたね。（自然に表現の間違いを修正する。）

ではみんなで言ってみよう！1・2（まずは全員で言うようにする。）

S: What sport do you like?

T: Very good. ○○さん、言ってごらん。（個人に返す。）

S1: What sport do you like?

T: Good.

T: あれ？ そういえばそもそもなんでインタビューするんだつたっけ？

S: プレゼントカードを渡すため！

T: 何のために渡すんだったかな？（めあての方を見ながら）

S: 友だちともっと仲良くなるため！

T: That's right! そうだったね。仲良くなるためだったよね。じゃあそうなるためにさっきのインタビューで何か工夫したことありますか？

S: え…。

T: 先生はさっきのインタビューで、仲良くなる工夫をしてる人を見つけたよ！△△さん、Please, come here. 今から二人でやってみるから、どんな工夫をしてるかを見つけてね！先生と△△さんの両方をしっかりと見ていてね。

※デモンストレーションを見せる。

T: 仲良くなるためにどんな工夫をしていましたか。○○さんの工夫でもいいし、先生の工夫でもいいよ。

S: ○○さんが Me, too. と言ってた！

T: いいことに気付いたね。先生さっき、○○さんが Me, too. って言ってくれたから、話をちゃんと聞いてくれたんだなと思ったよ。◇◇さん、What food do you like?

S3: I like steak.

T: Me, too!（オーバーリアクションで） どんな気持ち？

S3: うれしいかも！

T: そうだよね。Nice idea! ほかに見つけた工夫はありますか？…（やり取りを続ける。）

※工夫を出し合うだけでなく、実際にその場でやり取りをして体験することで、その工夫の良さを実感できるようにする。

T: たくさん工夫が出てきたね。この中から後半にやってみたい事を決めて、実際にプレゼントをする友達にインタビューをしてみましょう！

## 言語活動（後半）

S1: Hello, ○○san.

S2: Hello, ○○san.

S1: What food do you like?（相手の目を見ながら）

S2: I like steak.（ジェスチャーをしながら）

S1: Wow! Me, too!（相手の好みに共感している）

S1: What color do you like?

S2: I like black. Do you like black?（自分について答えた後、相手に聞き返しの質問をしている）

S1: Yes, I do.（ジェスチャーをしながら）

※役割を変えて繰り返す。

S1: Thank you. See you.

S2: See you.